

ドローンの空路開拓を手がける「クロステックフィールドジャパン」(各務原市)と連携協定を締結している同市、関市は27日、災害時を想定した物流用ドローンによる飛行実証実験を行った。自治体をまたいだ物流用ドローンの実証実験は全国初。飲料水12リットルを積んだドローンは、雨が降りしきる中、中日本航空専門学校(関市迫間)から各務原市テクノプラザ(各務原市)までの約6.2キロを飛んだ。

(桂川景)

関―各務原市 実証飛行

自治体間で初実験 飲料水12リットル、無事到着

空路を活用して災害時の物資運搬に役立てようと、同社が両市に働きかけ、ROBOZ(ロボッツ、恵那市)が全面協力した。ドロー

ンは世界最大手の中国企業DJI製の物流用機体「フライカート30」。全長2.8メートル、最大積載量は30キロ、1回の航続距離は最長16キロ。



災害時、ドローンで物資運搬

高賀の森水を積んだ物流用ドローンを運ぶ平野祐也社長(右端)と山下清司市長(右から2人目)ら。関市迫間、中日本航空専門学校

自動航行し、墜落防止のパラシュートを備えている。同専門学校と同プラザをオンラインでつないで出発式が開かれ、クロステックフィールドジャパンの平野祐也社長や山下清司関市長、浅野健司各務原市長、同専門学校航空ロボティクス科の生徒ら計約200人が出席。カウントダウンの合図とともに、奥長良川名水(関市)の「高賀の森水」500リットル入りペットボトル24本(約12リットル)を積んだドローンが各務原市に向けて出発。トラブルなく約12分後に同プラザに到着し、両会場から大きな拍手が湧き起こった。

今後も実証実験を重ね、物流用ドローンの実用性を高める方針。平野社長は「雨が降ったことで良い実験日和となり、大きな第一歩を踏み出すことができた。今

後も少しずつできることを増やし、日本の空をつなぐ努力をしていきたい」と語った。